

## 事例紹介

### あさご 兵庫県朝来市立 竹田小学校

## 低学年から学期末にまとめドリル ～PCのルールを学びながら楽しく学習～

天空の城で有名な竹田城の近くにある朝来市立竹田小学校では、1年生からeライブラリを使ったドリル学習を行っています。今回は元気いっぱいな1年生、学期末のまとめの授業をご紹介します。



### 授業 学期末のまとめにドリルで苦手克服

#### ● 自然と生まれる学び合い

この日は2学期のまとめとして、eライブラリのドリルで算数の復習を行いました。タブレットPCが自分の手元に配布されると、嬉しさとワクワクが抑えきれない様子です。「先生！早くやりたい！」「始めてもいいですか？」と元気な声が飛び交い、先生のお手本に習ってドリルを進めていきました。

操作がわからなくなったり、問題が難しくなると、**近くの友達同士で教え合う姿**が見られました。國眼(こくがん)先生のクラスでは**普段の授業からペア学習を取り入れている**ため、自然と学び合いが生まれていました。



▲ 隣の子に教えています

#### ● わからないところがわかった！

「いろいろなかたち」の問題からスタートし、100点を取れたら次のレベルや別の単元に進んでいきました。

「eライブラリの良いところは、子どもたちが**自分のわからないところに気付く**ところです。テスト前に自分の弱点に気付くことで、教師側も**テストを行う前に必要な指導やフォローができます**」と國眼先生。

学期末のまとめにドリルで復習することで、今まで気付けなかった自分の苦手に気づき、新学期までに克服できるきっかけになっています。



#### ● 自分の学習に集中する時間

ドリル学習の時間はそれぞれが自分のペースで進めていきます。得意な子は挑戦問題など難しい問題にもどんどんチャレンジしていき、つまづいている子には先生が机間指導をしながらフォローしていきます。

eライブラリでは普段の一斉授業では補うのが難しい、**個に合わせた学習**ができるため、同じ時間の中でも子どもたちそれぞれが**自分に必要な学習**を行うことができます。

正解すると「やったー」と両手を挙げて喜ぶ姿も見られ、達成感を感じながら学習をしていました。



低学年でもルールを守ってPCを活用していくための運用の工夫を、國眼先生に伺いました。

## ● PCのルールを守って楽しく学習

PCを1年生から使っていくにあたり、國眼先生は『**勝手なことをしない練習**』を日常の中で行っています。PCを使う際には『**勝手な操作をした人は二度とPCを使わせない**』というルールを設け、最初に繰り返し子どもたちに言い聞かせます。

子どもたちはPCを使うことが大好きですが、皆がルールを守らないと使えません。「楽しいことや面白いことをしたいのであれば、全員がルールを守ることが大事」ということを子どもたちに伝え、習慣化させているそうです。



▲ 先生の指示があるまで触りません

## ● eライブラリでログインの練習

竹田小学校の1年生は、eライブラリにログインし、学習履歴を残して学習しています。

1年生にとっては初めてのログインですが、ログインには**IDとパスワードの入力が必要**なこと、そして**パスワードは大切に保管しなければいけない**ことを、eライブラリにログインしながら学んでいきました。

eライブラリで学習しながら、情報モラルとして必要な知識も少しずつ身に付けていきます。



▲ ログイン後の画面を説明しています

## ● タッチで判定！1年生でもらくらく操作

ローマ字入力をまだ習っていない1年生でも、eライブラリは**タッチやマウス操作**だけで簡単に問題を解くことができます。

操作で迷うことがないため、学習に集中でき、タッチですぐに正誤判定してくれるテンポの良さが、子どもたちに好評のようです。

また、**選択肢が子どもたちの考えるヒント**になっており、「この中から正解を見つけよう！」という意欲にも繋がっているそうです。



こくがん

## 情報担当 國眼 厚志 先生のお話

PCを使うときは必ず子どもたちにルールを説明してから使うようにしています。1年生のうちからPCに触れる習慣をつくることで、子どもたちの**ICT活用能力**を伸ばし、**PCで学習することの楽しさ**を教えることができると考えています。

eライブラリは**子どもたちが意欲を持ってどんどん進めていける**ところが良いと思います。また選択式で5問くらいの問題が1まとめなのが低学年にとっては飽きずちょうど良いです。**スモールステップ**で少しずつ進められるので、子どもたちの意欲に繋がっています。

今後は一斉学習機能と履歴の機能を使って、指定した単元の問題を行うことにより、個々の進捗や理解度を確認しながら活用していきたいと思います。



國眼 厚志 先生